

今週（7月10日から7月14日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積み最終日を週末に控え、出し取りともに最終調整ニーズの強い展開となった。

無担保コールO/N物の加重平均レートは、国債買現先オペの影響もあり、週初10日は▲0.021%、11日は▲0.026%と前週の上昇基調から一転して低下した。しかし12日には再び上昇し▲0.019%、13日は▲0.009%となった。実質的な積み最終日となった14日は、国債買現先オペのスタートや7月積み期に跨ぐ取引となった事から、レート水準はやや低下する展開となった。

ターム物に関しては、積み期間の切り替わりでレート水準に変化が見られた。6月積み期内物で▲0.03%前後、7月積み期スタート物で▲0.05～▲0.06%程度での出合いが散見された。

日銀当座預金残高は、週初に537兆円台後半から始まった。週内に源泉所得税揚げや債券の発行などにより大幅な減少が予想されていたが、国債買現先オペ（計3本、合計7兆）のオファーでの着地が予想されている。

●レボ市場

今週のGC O/Nは▲0.09～▲0.04%で推移する展開となった。日銀による国債買現先オペが実施された事を受け、週を通してボラティリティの大きいマーケットとなった。

SC取引の個別銘柄では、2Y440～450回、5Y150～159回、10Y355～371回、20Y180～185回、30Y65～79回、40Y10～16回などで引合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、3Mゾーンが堅調に、そのほかのゾーンは横ばい圏での推移となった。

14日に実施された3M物の入札は、按分落札利回り▲0.1297%、平均落札利回り▲0.1366%と、無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、強含んで推移した。

また、11日に実施された短国買入オペは、前回と同額の1,000億円でオファーされ、按分利回較差+0.006%、平均利回較差+0.007%と、無難な結果となった。

●CP市場

今週のCP 発行市場は、石油・鉄鋼・鋳業など幅広い業態で大型発行が見られた。

市場発行残高は、期明けの調達再開で伸長しており、13日までは26兆円台後半での推移となった。

発行レートについては、前週に引き続き0%近辺での出合いが中心となっている。一方でロングターム物の案件では、日銀による政策変更の警戒感からかレート水準にばらつきが見られた。

また、11日にはCP等買入オペが事前予定通り4,000億円でオファーされた。結果は按分レート0.002%、平均落札レート0.011%と前回比（按分0.000%・平均0.014%）で按分は上昇し、平均は低下となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レボレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
7/10（月）	32,189.73	0.465	142.50	△ 0.021	△ 0.087	5,376,600
7/11（火）	32,203.57	0.450	141.42	△ 0.026	△ 0.086	5,363,200
7/12（水）	31,943.93	0.475	139.83	△ 0.019	△ 0.066	5,305,400
7/13（木）	32,419.33	0.465	138.55	△ 0.009	△ 0.083	5,308,500
7/14（金）	32,391.26	0.475	137.50	△ 0.021	△ 0.085	5,332,700

来週（7月18日から7月21日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
7/17 (月)	海の日				
7/18 (火)	5月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30) 5月の石油等消費動向統計(経済産業省 13:30)				6月の米小売売上高 6月の米鉱工業生産・設備稼働率 5月の米企業在庫
7/19 (水)		TB1Y 35,000億円 7/20発行	流動性供給 5,000億円 7/20発行	交付税借入 13,000億円 7/31借入	6月の米住宅着工件数 6月のユーロ圏消費者物価指数改定値 6月の英消費者物価指数
7/20 (木)	6月の貿易統計(財務省 8:50)				6月の米中古住宅販売件数
7/21 (金)	6月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 58,000億円 7/24発行	流動性供給 5,000億円 7/24発行		

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
7/17 (月)	海の日								
7/18 (火)	300	7,800	8,100	国債買入 国債補完 国債買現先 CP買入 社債買入	47,900 ▲ 38,100 ▲ 700 ▲ 100	16,700	25,700	33,800	TB3M発行▲58,000償還63,000 個人向け3・5・10Y発行▲2,500 償還1,700 交付税借入▲13,000期日13,000
7/19 (水)	500	1,000	1,500	全店共通	▲ 6,300		▲ 6,300	▲ 4,800	
7/20 (木)	▲ 500	▲ 6,000	▲ 6,500				0	▲ 6,500	TB1Y発行▲35,000償還34,400 流動性供給▲5,000 エネルギー借入▲7,800期日7,800
7/21 (金)	▲ 500	1,000	500				0	500	
週間合計	▲ 200	3,800	3,600	—	2,700	16,700	19,400	23,000	

7/18は日銀予想、7/19以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、新しい積み期間となり基準比率が大きく低下する。ビッドサイドは、低めのレート水準で入事が想定され、改めて水準を探る展開となろう。債券レポ GC T/N物は、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、▲0.085～▲0.08%程度の水準で推移することが見込まれる。短国市場は、19日に1Y物、21日に3M物の入札実施が予定されている。また、18日に実施が予想される短国買入オペは、1,000億円程度が見込まれる。CP市場は、五十日にあたる20日発行が控えており、発行動向が注目される。

主要なイベントは、国内では、20日に6月の貿易統計、21日に6月の全国消費者物価指数、海外では、18日に6月の米小売売上高、19日に6月のユーロ圏消費者物価指数改定値、6月の英消費者物価指数などの発表が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされまようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等を負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入